

1 家路

家路

一 遠き山に日は落ちて

星は空をちりばめぬ

きょうのわざをなし終えて

心軽く安らえば

風は涼しこの夕べ

いざや楽しきまどいせん

まどいせん

二 やみに燃えしかがり火は

ほのお今はしずまりて

ねむれ安くいこえよと

さそうごとく消えゆけば

安きみてに守られて

いざや楽しき夢を見ん

夢を見ん

2 上を向いて歩こう

上を向いて歩こう

上を向いて歩こう

涙がこぼれないように

思い出す春の日

一人ぼっちの夜

上を向いて歩こう

にじんだ星をかぞえて

思い出す夏の日

一人ぼっちの夜

幸せは雲の上

幸せは空の上

上を向いて歩こう

涙がこぼれないように

泣きながら歩く

一人ぼっちの夜

3 北国の春

北国の春

一 白樺 青空 南風

こぶし咲くあの丘

北国のああ北国の春

季節が都会ではわからないだと

届いたおふくろの小さな包み

あの故郷へ帰ろかな帰ろかな

二 雪どけ せせらぎ 丸木橋

から松の芽がふく

北国のああ北国の春

好きだとお互いに言い出せないまま

別れてもう五年あの娘はどうしてる

あの故郷へ帰ろかな帰ろかな

三 山吹き 朝霧 水車小屋

わらべ唄聞こえる

北国のああ北国の春

兄貴もおやじに似て無口な二人が

たまには酒でも飲んでるだろうか

あの故郷へ帰ろかな帰ろかな

#### 4 荒城の月

##### 荒城の月

一 春高樓の花の宴

めぐる盃かげさして

千代の松が枝わけいでし

むかしの光いまいずこ

二 秋陣營の霜の色

鳴き行く雁の数見せて

植うる剣に照りそいし

むかしの光いまいずこ

三 今荒城の夜半の月

変わらぬ光誰がためぞ

垣に残るはただかつら

松にうたうはただ嵐

#### 5 里の秋

##### 里の秋

一 静かな静かな里の秋

お背戸に木の実が落ちる夜は

ああ母さんとただ二人

栗の実煮てますいろり端

二 明るい明るい星の空

鳴き鳴き夜がもの渡る夜は

ああ父さんのあの笑顔

栗の実たべては思い出す

三 さよならさよなら椰子の島

お船にゆられてかえられる

ああとうさんよご無事でと

今夜もかあさんと祈ります

#### 6 月の砂漠

##### 月の砂漠

一 月の砂漠をはるぼると

旅のらくだは行きました

金と銀との鞍おいて

二つならんで行きました

二 金の鞍には銀のかめ

銀の鞍には金のかめ

二つのかめはそれぞれに

ひもでむすんでありました

三 先の鞍には王子さま

後の鞍にはお姫さま

乗った二人はおそろいの

白い上着を着てました

砂丘をこえて行きました

だまあってこえて行きました

## 7 津軽平野

### 津軽平野

一 津軽平野に雪降る頃はヨー

おどう一人で出稼ぎ支度

春にやかならずおどうは帰る

みやげいっぱいぶらさげてヨー

淋しくなるけどなれたやおどう

二 十三みなとは西風強くて

夢もしばれるふぶきの夜更け

ふるなふるなよ津軽の雪よ

春が今年も遅くなるよ

ストーブ列車よあいたやおどう

三 山の雪解け花咲頃はよ

かあちゃんやけによ

そわそはするネー

いつもじよんがら大きな声で

おとう歌って 駅からおりる

お岩木山よ見えたかおとう

## 8 花笠音頭

### 花笠音頭

一 目出度 目出度の 若松さまよ

枝も チョイチョイ

栄えて 葉も茂る

ハア ヤツシヨ マカシヨ

シヤン シヤン シヤン

二 花の山形 紅葉の天童

雪を チョイチョイ

眺むる 尾花沢

ハア ヤツシヨ マカシヨ

シヤン シヤン シヤン

三 雪の舟形 情けに厚い

呼べば チョイチョイ

とけそな やさすがた

ハア ヤツシヨ マカシヨ

シヤン シヤン シヤン

四 おらが在所へ来てみてしやんせ

米の チョイチョイ

なる木がおじぎする

ハア ヤツシヨ マカシヨ

シヤン シヤン シヤン

## 9 浜千鳥

### 浜千鳥

一 青い月夜の 浜辺には

親を探して 鳴く鳥が

波の国から 生まれ出る

濡れた翼の 銀の色

二 夜鳴く鳥の 悲しさは

親をたずねて 海越えて

月夜の国へ 消えていく

銀のつばさの 浜千鳥

## 10 ふるさと

### ふるさと

- 一 うさぎおいしかの山  
こぶなつりしかの川  
ゆめはいまもめぐりて  
わすれがたきふるさ
- 二 いかにいますちちはは  
つつがなしいや友がき  
雨に風につけても  
思いいづるふるさ
- 三 こころざしをはたして  
いつのひにかかえらん  
やまはあおきふるさと  
みずはきよきふるさと

## 11 みかんの花咲く丘

### みかんの花咲く丘

- 一 みかんの花が咲いている  
思い出の道丘の道  
はるかに見える青い海  
お船が遠くかすんでる
- 二 黒い煙をはきながら  
お船はどこへ行くのでしょ  
波に揺られて島のかげ  
汽笛がぼうと鳴りました
- 三 いつか来た丘かあさんと  
一緒にながめたあの島よ  
今日も一人で 見ていると  
やさしい母さん 思われる

## 12 おやじの海

### おやじの海

- 一 海はヨク 海はヨク  
でっかい海はヨク  
俺を育てた おやじの海だ  
沖で苦労のシラガも増えて  
汐のにおいが はだ身に しみた  
そんな おやじが いとおしい
- 二 今はヨク 今はヨク  
静かな海もヨク  
一度荒れたら 岩をも砕く  
シブキ 立ち込め打ち寄す波に  
右にてぐすを 左で ろこぎ  
つらい漁師に たえて来た
- 三 空のヨク 空のヨク  
入道雲がヨク  
どこか似ている おやじの顔に  
つらい時には入道雲を  
じつとにらんで おやじの苦労  
思い出しては たえてゆく

星影のワルツ

一 別れることはつらいけど

しかたがないんだ君のため

別れに星影のワルツをうたおう

冷たい心じゃないんだよ

冷たい心じゃないんだよ

今でも好きだ死ぬほどに

二 一緒になれる幸せを

二人で夢見たほえんだ

別れに星影のワルツをうたおう

あんなに愛した仲なのに

あんなに愛した 仲なのに

涙がにじむ 夜の窓

三 さよならなんてどうしても

いえないだろう泣くだろうな

別れに星影のワルツを うたおう

遠く祈ろう幸せを

遠く祈ろう幸せを

今夜も星が降るようだ